



小さなクルマ、 大きな未来。

スズキ株式会社
代表取締役副社長

本田 治

はじめに

スズキは1955年に軽四輪車スズライトを発売以来、小さなクルマを中心に多くのモデルを世の中に送り出してきました。それらの中でも、キャリイ、ジムニー、アルト、ワゴンR、スイフトなど、その登場時に大きな注目を集め、そして今も日本と世界のクルマ社会で大きな存在を保ち続けているモデルが多くあります。

かつて、大きなサイズのクルマの割合が多くなり、軽自動車のような小さなクルマは存在を心配された事も確かにありました。そのような時代にあっても、私もスズキは小さなクルマの持つ良い点、つまり身近な日常の使い勝手の良さや経済性こそ、クルマの持つべき本質であり、小さなクルマの存在はなくなるどころか必ず多くのお客様に愛用される時代が来ることを信念に持ち、今まで歩み続けてまいりました。

世界で活躍する小さなクルマ

軽自動車は日本で生まれ、日本で大きな存在に育ったクルマです。都道府県単位でみた時、販売の50%以上を軽自動車に占める県が地方を中心にいくつもあり、地域の人の移動や物流になくてはならない交通手段としてご愛用いただいております。

それは日本だけでしょうか。スズキは1980年代前半に、軽自動車を持ってインドの地に行きました。エ

ンジンを800ccとしたそのクルマは、たちまちインドの皆様にも愛され、今日でも軽自動車ベースの小さなクルマを毎月何万台もご購入いただいております。

そしてそれはインドだけでなく、アジアや中国、パキスタン等でも同様です。軽トラックや軽乗用車をベースとしたいくつものクルマを1980年代から現地生産してまいりました。

欧州においても初めは軽自動車をベースとしたクルマを市場に投入、そして今では1,000～1,200ccのクルマが中心になっています。

スズキは常にお客様の日々の生活の身近にある小さなクルマを中心に提供し続けております。

これからの小さなクルマ

2010年は、世界で年間7700万台以上の四輪車が生産されました。新しくクルマを手に入れ、クルマのある便利で日々生き活きた生活を始める人々がたくさんいる一方、まだまだそのような便利さに浴していない人々がたくさんいることも事実です。それらの人々にもクルマのある豊かな生活をお届けしたい。スズキはそう願っております。また同時に、これだけ多くのクルマが生産されていることから、環境への対応を問われています。特にエネルギー消費をいかに少なくするかが重要な課題です。

小さなクルマは、生産段階における資源や材料の使用量が少なく、また使用段階においてもエネルギー消費が少ないことから環境への適応、そして未来へのサステナブルな社会を作っていく優れた交通手段の一つであると考えます。そして、私達はさらにその特質を追求しなければなりません。動力源である内燃機関の効率向上の徹底した取組み、車両重量の大幅な低減、空気抵抗や走行抵抗の低減です。また、ハイブリッド車や電気自動車、そして燃料電池車など次世代技術にもしっかりと取組まなければなりません。

以下にそれら取組みのいくつかをご紹介します。

新開発R06A型エンジン

軽乗用車 新型MRワゴンに搭載した新開発「R06A型エンジン」は燃焼効率を高めるために全面新設計、また各部は徹底してフリクション低減を図りました。車体についても従来車に対して約30kgの軽量化を実現しました。同時に、副変速機構付きCVT、アイドリングストップの採用と併せて従来車の22.0km/ℓ*に対し、27.0km/ℓ*という大幅な低燃費化を達成しました。

*燃料消費率 10・15モード(国土交通省審査値)



新型MRワゴンと新開発R06A型エンジン

吸排気VVT機構



スウィフト EVハイブリッド

スウィフト EVハイブリッド

スウィフト EVハイブリッドは、発電用エンジン(0.66ℓ)を搭載した電気自動車です。電力で約30km走行することができ、バッテリー残量が少なくなるとエンジンで発電し走行できるため、バッテリー切れにより走行できないという不安を解消しました。現在は、日本各地で実証実験を行なっております。

バーグマン フューエルセルスクーター

二輪車に搭載するため軽量コンパクトな空冷式燃料電池を採用、水素タンクはフレーム内にレイアウトしています。四輪同様、国内外で実証実験を重ねています。



バーグマン フューエルセルスクーター

e-Let's 電動スクーター

電動スクーターも同様に開発・公道走行調査を進めております。1回の充電で約30kmの走行が可能なバッテリーを2個搭載できるため、約60km走行することができます。



e-Let's 電動スクーター

スズキは小さなクルマの可能性に信念を持って製品を開発してまいりました。

- 歩み続ければ必ず達する -

人と地球とクルマの大きな未来に向けて、これからもスズキは小さなクルマとともに歩み続けます。